

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	脊椎および骨盤骨に発生した骨肉腫・骨悪性線維性組織球腫に対する至適局所治療に関する多施設共同レトロスペクティブ研究
	研究目的	四肢骨原発の高悪性骨肉腫および骨未分化多形肉腫（骨 UPS または悪性線維性組織球腫、骨 MFH）に比べて、体幹部発生例ではさらに発生頻度が低く、解剖学的に根治的切除も困難な場合が多いため治療の標準化が遅れている。これら体幹骨発生症例に対する重粒子線治療の成果が近年報告されているが、手術と比較した報告はほとんどない。 本研究では、脊椎・骨盤骨に発生した骨肉腫および骨 UPS の治療経過を後視的に調査し、生存、病巣の局所制御および機能温存における切除術、重粒子線治療、化学療法役割を明らかにすることを目的とする。
	研究期間	2014年7月31日から2017年7月31日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	氏名を記載して下さい 比留間 徹
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	記載して下さい 骨軟部腫瘍外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	記載して下さい 国立がん研究センター骨軟部腫瘍科・リハビリテーション科 川井 章 千葉県立がんセンター整形外科 米本 司 東京大学整形外科 河野 博隆 慶応義塾大学整形外科 森岡 秀夫